

実物の電車とパネルなど貴重な資料を展示しています。
※ボランティアにより運営しています。



ご家族でお楽しみいただけるミニ電車ホクさんにご乗車できます。

【開館日時】毎月第1・3日曜 入館無料

※1月のみ第2・3日曜

10:00~16:00

【問い合わせ先】安藤建材店 TEL0594-72-2478



ようこそ坂と軽便鉄道のまちあげきへ

阿下喜

古くから濃州街道の宿場町として栄え、今も大切に受け継がれる古き町並みの阿下喜。

屋外展示物紹介

モニ220型 226号

この電車は、昭和初期から約50年間、北勢線で運行され、その後、昭和53年~58年 内部八王子線の活躍を最後に廃車となりました。引退後、四日市スポーツランドに展示されていましたが平成19年にボランティアの方々により、当阿下喜駅に移設・北勢線存続と地域の活性化の願いを込め修復されました。

車両概要

車種	手荷物室付電動客車
形式番号	モニ220型
記号番号	226号
定員	48人(内座席28人)
自重	15.8トン
最大寸法	長さ 11.46m
	幅 2.13m
	高さ 3.72m



六石駅名標(平成16年廃駅)



腕木式信号機

腕木式信号機は、柱の頂上付近に羽子板のような腕木を取り付けた信号機で、腕木が水平なら「停止」を、45度下がった状態で「進行」を示すようにしたもので、駅員がレバーで操作していました。

どこにでもあったこの信号機は、近代化・機械化により徐々に姿を消し、JR東海管内で最後まで残っていたものです。JR名松線家城駅で2004(平成16)年まで活躍していました。



転車台(ターンテーブル)

阿下喜駅構内に埋もれていた転車台は、1914(大正3)年に開業した北勢線の前身である北勢鉄道が、1931(昭和6)年に阿下喜駅まで延伸して間もない時期に造られたもので、使用されているレールに「CARNEGIE 1914」の刻印があります。当時の阿下喜駅では、桑名方面から運ばれた材木を積んだ貨車を隣接する製材所へ移動する際の方向転換に使われていたようです。直径3m前後のものが主流だったようですがこの転車台は約5mと大型です。



西町通り(昭和初期)